

総務文教  
常任委員会

# 視察研修報告

総務文教常任委員長 細川弘美

10月23日 下諏訪町  
目的／まちづくりへの住民参加と自治組織への加入促進を進める方策、町民協働推進条例（仮称）策定委員会の経緯と現状、合併について視察。

視察では、対応していたたかく町職員の姿勢により、町長がどんな姿勢で町政を叩いているか見えてくる。民間出身町長として、大胆な意識改革と、町と住民はパートナーであるとした姿勢が10人委員会であり、住民と

町職員が一緒になって条例を作る、NPO、ボランティア、住民参加がうまく機能している町という印象を受けた。合併を控えて、市の職員に負けない職員を育てるとした町長の姿勢が、職員に理解されているように感じた。

10月24日 高森町  
目的／町民参加条例策定の経緯、町民参加条例策定の現状について

業務を担当した係長に対応していただいた。町の人口が増加していることが条例策定の発端と考えられる。「町民参加のまちづくり」を条例とし、転入者に条例に基づき地域の自治組織「協会」への加入の促進を図っていた。

○安曇野ちひろ美術館  
女性に人気の美術館と聞いていたが、平日にもかかわらず入出は多く、近くの小学生が体験授業として利用していた。中には展示室、子供の部屋、カフェ、ショップ、絵本の部屋、資料研究室、他目的ギャラリーと時間をかけて来しめ、またお金の稼げる美術館であると思っ



長野県下諏訪町の開かれた町長室

○諏訪市美術館  
諏訪湖の辺に立つ古館を、昭和25年度に寄付採納され、公民館として利用されていた建物を昭和31年度から美術館として開館。延べ床面積約900㎡、年間入館者約1万2千人、入館料180万円、美術館費として2千500万円の計。

○原田泰治美術館

5周年記念展として原田泰治と仲間3人展を開催中で、新潟県出身の岡田清和氏のはり絵が展示中であった。NIIKで紹介された絵が現実に目の前にあることで、さらに感動を覚えた。建物は鉄筋コンクリート造り2階建て、総工事費7億円、入館者10万人、5年間で69万人であった。

○池田町立美術館

郷土の山家から700点の絵と4億円を寄付を頂き、総額約16億円建てられた美術館であった。入館者は1万6千人とのことであった。



南雲正美

## 質問

この6月議会で行い、思考期間を経て、再度の質問です。ノリタ光学、大黒電線の2社が、町から撤退、パブル経済のあおりから民宿の廃業は依然続いており失業率は増加の一途にあります。この状況が続くと失業は止まらず、人口減少、少子化はさらに進み、税の滞納者も増加「滞納額19億突破」し町の財政も低下衰退に向っている。

町はこのような時を思いきった緊急雇用対策を全力で取り組んで町の活性化を図り、失業抑制しなければならぬと考える。工場を誘致し、用地は借地方式で、進出企業に借地料と固定資産税を10年間免除する特例処置を設けて、企業誘致を早急に行うべきと考え、町長の前向きな考えを伺います。

# 雇用対策に関わる人口減少の抑止策について

## 町長室長

町に安定した職場が少ない事は認識している。前に質問の経緯もあり、進出企業探しに数社話しかけをしている。しかしながら、経済不況で簡単に行かない。今後は議員と役場職員共々情報を収集し、総務課企画振興担当者も入れて、施策を検討し、進めて行く考えである。平成17年は町政50周年の年に当たり併せて観光立町宣言をし、観光の発展の推進と雇用対策も積極的

## 旭原を通年観光としての推進を図れないか

## 質問

旭原に花の郷体験施設が平成17年7月に完成オープンする予定で、青少年旅行村、陶芸工房と、施設が整い、各施設のさらなる充実を図る目的で、自然の宝庫である風光明媚の足拍子沢と足拍子岳付近を、望出来る所に、遊歩道を新設し、自然を破壊しないで有効活用し、自然の美しさを十分に堪能してもらえ

提案して、湯沢地区協会にも協力を願いながら、積極的に推進するべきと考え、町長の前向きな考えを伺います。

## 町長室長

風光明媚の足拍子は何回か行って美しい所と認識している。官民一体の事業として、自然を破壊しない手法で長期観光に役立たせる事は大切で、私も同感です。町に全部おまかせでは仕事も多額になり厳しい状況となり、協議会が団結し、官民一体を望み、体制が整ったら町に陳情、請願を上げていただきたい。今後このような事業については、町にお願いして全部やってもらえばいいやでなく、官民一体で取り組む事は大切なことで、事業も進めやすくなるので、ぜひ土樽地区の協議会がまとまったらこの事業を積極的に進めていきたいと考え、町長の前向きな考えを伺います。



旭原の自然を活かせ 足拍子沢方面

# 一般質問